

2024年

かわむら小児科

公式 LINE



モ〜モ〜くらぶ



溶連菌感染症について

2月からインフルエンザB型の流行が続いており、新型コロナウイルス感染症もずっとゼロにはならず出ていますが、溶連菌感染症、アデノウイルス、ヒトメタニューモウイルスなども出ており、溶連菌は2月から特に多いです。溶連菌はA群β溶血性連鎖球菌という細菌が主としてのどに(時に皮膚に)、つばが飛んだりしてうつる病気です。多くは3歳から9歳ぐらいの子どもがかかる病気ですが、0歳児や大人でもかかることがあります。潜伏期は2〜5日です。以前は“猩紅熱”と呼ばれ恐れられていた病気ですが、最近では症状も軽くなり溶連菌感染症と言われるようになりました。

症状は発熱(出ない場合もあります)、のどの痛み、発疹(3割ぐらいです)、時に腹痛、吐き気などがあり、舌がイチゴのように赤くプツプツ(イチゴ舌)となることもあります。抗生剤(ペニシリン系、セフェム系)がよく効く菌なので抗生剤を飲んで1日2日たつと熱も下がり症状もやわらぎます。また、抗生剤を飲み始めて24時間たつと、菌は人にうつらない量(10分の1ぐらい)になるので全身状態が良ければ登園登校は可能になります。ただし途中で飲むのをやめしまうと再発したり、急性腎炎やリウマチ熱を起こすことがあるので、菌が完全に消失するまで抗生剤を10日間飲むのが通常です。当院ではかかってから2週間後ぐらいに腎炎になっていないかどうか検尿します。

また、1回なったら終わりではなく、何回でもかかる病気です。兄弟や親に感染することもあり、そこからまたうつり返すこともありますので、家族でのどの痛みなどがあれば検査をすることをお勧めします。

・・・感染症情報(3月7日現在)・・・

★インフルエンザB型(A型はほとんどいなくなりました)、新型コロナ、溶連菌が多く、アデノウイルス、ヒトメタニューモウイルス、ノロウイルスと思われるウイルス性胃腸炎(嘔吐下痢症)も少しずつ出ています。

花粉症を予防する方法

花粉症の予防は、できるだけ体内に花粉を取り込まないようにすることです。

★花粉飛散量が多い日は外出を自粛する
風が強い日や雨の日の翌日などは特に飛散が多くなります。

★メガネやマスクを着用する
ツルツルした服も花粉が付きにくくお勧めです。

★帰宅時に花粉を払い、手洗いや洗顔を行う
外出後は玄関に入る前に服や髪に付いた花粉を払いましょう。

★花粉が多い日は洗濯物を外に干さない
できるだけ室内に干し、屋外に干したものは取り込む前にしっかり払いましょう。

★部屋を適度に加湿してこまめに掃除をする
加湿することで花粉に水分が付き、重くなって下に落ちやすくなります。落ちた花粉をモップなどでこまめに掃除しましょう。

★空気清浄機を24時間稼働させる
室内の花粉飛散量を減らすことができます

(ホットケーキ)

しんかんくん うちにくる

作・絵: のぶみ

しんかんくんの大好きなかんたろうくん。最近休日になっても会いに来てくれません。どうしてもかんたろうくんに会いたくなったしんかんくんが、「えいや！」とホームを乗り越えて町中大騒ぎに！

新幹線が好きな子が楽しめる絵本です。(ピノ)



3月13日(水) 休診

日本医師会母子保健委員会出席のため